

仮想アース Crystal E の導入(14) (HP 収載)

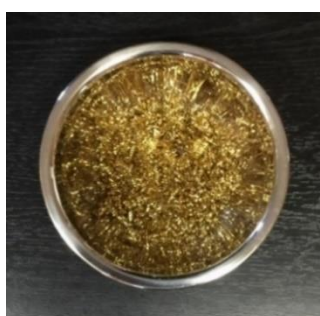
—仮想アースの製作(2)—

1. 始めに

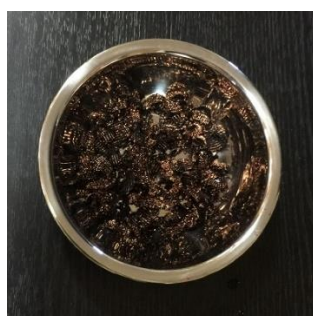
前報(9)では、金属タワシを加工せずに仮想アースとし、前報(12)では異種の金属タワシを切り刻んで混合してみました。今回は、少しばかり素材や加工法を替えたものを検討しました。本報も、Crystal E ではありませんが、整理の都合上、仮想アース Crystal E の導入シリーズに含めて報告いたします。

2. 仮想アース製作と試聴方法

素材としては、真鍮は前報(12)と同じ、前報(12)から銅とステンレスはブランドを替えており、半田はやめて木炭の粉碎物としました。混合比率は目分量で、真鍮：銅：ステンレス：木炭が、2：2：1：1です。



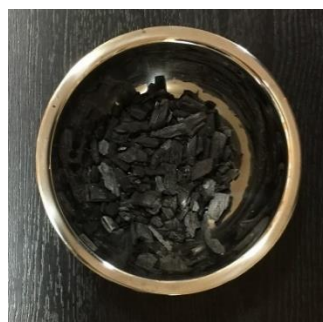
真鍮



銅



ステンレス



木炭

容器は大きめということで、690mlのタッパーウェアにし、内容物の構成は、容器の底から、【銅板→金属・炭混合末→銅板→金属・炭混合末→銅板】とし、真ん中の銅板にWesternの撚り線を半田付けして引き出します。

なお、銅板に代わりの電極用に銅製の亀の子タワシがあったので購入してみました。が、タワシの毛先は導通しておらず、説明を読むとどうやらポリプロピレンの中に

銅粉を練り込んで繊維状にしたもののようで、使用をあきらめました。



また、消臭用のケース入り炭材を購入しましたが、ゲル状に成型しており、これも使用しませんでした。そこで前回使用したものの導通を測ってみたところ、ステンレスタワシと真鍮タワシは問題ないものの、銅タワシは導通しませんでした。亀の子タワシと同様、表面は樹脂で覆われているものと考えられます。今回新たに使用するものについては導通を確認しました。木炭は抵抗の小さいものから大きいものまであり、竹炭は抵抗が大きかったので、できるだけ抵抗の小さい木炭を選んで粉碎しました。

以上、今回の目玉は銅製の亀の子タワシでしたが実現せず、前回の反省点は表面にコーティングされた銅製タワシであったことですが、今回の銅製タワシはその問題はなく、ネット上で評判の良い炭を加えたこと、ステンレスタワシは前回より細かい線のものを使用したこと、銅板は表面の色が変わっていない新品を使用したこと、容器は亀の子タワシを想定してプラスチック製の3倍程度の容量もものとしたことです。



接続先は前報(6)、前報(9)、前報(11)と同様とし、音源は前報(6)、前報(9)、前報(11)で使用したのから選定します。

3. 仮想アースの試聴結果

Brooklyn DAC+への接続のデジタル再生では、前報(6)で再生した BPODCH からロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィルによるマーラーの交響曲第3番とキーシン（ピアノ）とヤンソンス指揮ベルリンフィルによるリストのピアノ協奏曲第1番をアースなし、仮想アース1個、仮想アース2個と聴いていきました。



マーラーの交響曲第3番では、仮想アース1個、仮想アース2個と増えるにしたがい、音の分離が向上し、特に低音楽器の音のぼやけが解消し、全体としてのバランスがよく、迫力がでできます。

リストのピアノ協奏曲第1番では、仮想アース1個、仮想アース2個と増えるにしたがい、ピアノの打鍵の音の芯が明瞭になりし、スタンウェイの左手の低音の沈みこみが明瞭で、オーケストラの各パートの音の分離と協和も向上します。

Autograph MINI 入力端子接続のアナログ再生では、前報(9)で使用したバッハの **Sonatas & Partitas** と倍賞千恵子を再生しながら、アースなし、仮想アースありで聴いていきました。



バッハの **Sonatas & Partitas** では、仮想アースを接続しますと、高域の透明度が向上し、バランスがよくボウイングの様子がしっかりとれるようになります。

倍賞千恵子では、仮想アースを接続しますと、声や伴奏楽器の音の焦点があい、肌

理が細かくなって、音が澄んでくる感じです。

EMT981 への接続の CD 再生では、前報(11)で使用した下記 CD をアースなし、仮想アース 1 個、仮想アース 2 個と聴いていきました。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他

フランソワ=フレデリック・ギィ (ピアノ)

harmonia mundi KKC-5976

モーツァルト他 ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他

アンサンブル・ディアローギ



Sonata for cello and piano では、仮想アースが 1 個から 2 個の接続になるに従い、前報(12)と同様に、ピアノの打鍵に芯が通って余分な響きが後退し、チェロの擦弦音もしっかりしてきます。

ピアノと管楽器のための五重奏曲では、前報(12)と同様に、仮想アースが 1 個から 2 個の接続になるに従い、フォルテピアノの音の芯が立ち、4つの古楽器の木管の分離が明瞭になってきます。

なお、この場合、仮想アースを接続してしばらく時間をおくと音が安定するようです。

4. まとめ

今回も、オーディオ仲間とオーディオ誌などからの情報を基に自作した仮想アースの効果を認めました。全般的には、前報(12)の自作品と傾向は変わりませんでした。

以上